

行雲流水

No. 3 2 4 令和5年7月14日発行

夏の授業風景

校長 寒河江 正人

プールの水面が、まぶしいほどにきらきらと輝く。
どこからともなくツバメやトンボが飛んできて、すいすい気持ちよさそう。

水泳の授業が**4年ぶりに実施**され、**1週間**が過ぎようとしている。
生徒諸君、久しぶりの**プールの水を浴びる感触**は、いかがかな。

初日は、だれもが**楽しくて、笑顔いっぱい**。
はしゃいで、声をあげ、興奮がおさまらない。

「うわあ、冷たい。」「ああ、水のんじゃったあ。」という声が聞こえてくる。

感心するのは、
担当の先生の合図で、**みんながしっかりと話を聞ける**ところである。
実は、**これが、とても大事**なのである。

まず第1に、
前後の着替えの時間を差し引くと、
実際にプールに入って学習活動ができるのは、
1単位時間当たりで、いいところ25分というところだろう。
楽しい時間を無駄にせずに済む。

第2に、
説明や指示を聞かずに勝手な行動をとることは、
思いがけない事故にもつながりかけない。
自分のバディと安全を確認しあいながら、限られた時間を満喫して欲しい。

学校での水泳の授業にかけられる時間は、わずか。限りがある。
水に親しむ。泳ぐことを楽しむ。そういうことを大切にすることを養おう。

あと2週間、**事故なく、楽しく、有意義なひととき**になることを心から祈っている。